御嶽海

大相撲の時間です

人物も大きくなって

〈信濃の国は十州に　境連ぬる国にして―。10州、今でいう8県と接する長野県の壮大さをうたい上げる。日本で最も県民に浸透しているとされる県歌「信濃の国」。〈海こそなけれ物さわに―。内陸県だが物産の豊富さに胸を張るフレーズもある。その信州に「海」が誕生した。

春場所、幕下10枚目格付け出しでデビューした「御嶽海」。本名は大道久司。十両に「大道」、序二段に「久司」という力士がいるため、本名はしこ名にできない。師匠の出羽海親方（元幕内小城ノ花）が22歳の有望株に与えてくれたのが、故郷を代表する御嶽山と出羽海部屋を融合させたしこ名だった。

子を見守る父春男さんと自宅に移る父春男さんと母マルガリータさん＝長野県上松町で

木曽郡上松町で息子を見守る父春男さんとは「御嶽の文字をそのままもらって、御嶽大神に送れるい」と驚き、フィリピン出身の母マルガリータさん（春男）は「格好いい。山も海も入り、大きくて」と喜んだ。しこ名が発表されたその日、2人そろって御嶽神社に出向いたところに親心が表れる。父は「ありがとうございます」と感謝し、母はいつも通り「けがをしないよう、見守ってください」と手を合わせた。

久司少年は上松小1年で相撲と出合った。地元の大会の学年代表に選ばれたことをきっかけに、隣接する木曽町の木曽少年相撲クラブに入った。春男さんは「相撲を通して、礼儀正しくなってくれればいいと思って始めたんです」と懐かしむ。負けて叱ったこともなければ、息子から相撲が嫌になったと聞いたこともないという。

木曽町の福島中、木曽青峰高と進み、東洋大4年で小気味よい突き押しが大きく開花。昨年11月に学生横綱、12月にアマ横綱に輝いた。実業団相撲の強豪、和歌山県庁に就職が内定していたが、付け出し資格を得たことで方向転換した。「自分の人生は自分で決める」が教育方針。最終決断を伝えられたのは入門会見の数日前だった。

親としてどんな力士になってほしいのか、マルガリータさんは「てんぐにならないで」と明答する。貴国出身で「てんぐ」とは恐れ入る。「だってパパがいつも言っているから」。マルガリータさんは、正攻法に徹した元大関武双山（関藤島親方）が大好きだった。春男さんは「引退してしまったが、藤真将（現立田川親方）の『礼』がいい。勝っても、負けても。あれが相撲の原点」と礼節にとことんこだわる。

長野県から新十両は、佐久市出身の大鷲以来、47年誕生していない。「木曽の星」への期待は大きい。アマ横綱からスター街道を突っ走った道程とも比較される。春場所は2番取り終えて、1勝1敗。春男さんは「遠藤関と同じとは思うない。そんなるさしい世界ではない」と一歩、一歩、着実に歩むことを願っている。（高橋広史）